



# キーパーソン、語る

Special Interview

このコーナーでは毎月1回浜松をリードする人物の横顔に迫ります。  
今回は昨年創業100周年を迎えたサーラグループ代表の中村捷二さんです。

## 本当の目的を見失わないこと

### 数字を覚えるのが得意

第一次世界大戦のとき、浜松と疎開先の豊橋で空襲を体験。小学3年生のとき浜松に戻りました。当時は近所のお墓を抜けて学校を通ったり防空壕跡に入ったりする普通のやんちゃな子でした。中学はサッカー部でポジションは前方のウイング。サイドを駆け上がりセントリングするのが面白かったですね。県大会は2位。走るのが得意だったから、サッカーは楽しかった。今も観るのが好きで、今年はワールドカップに熱くなりました！

得意といえば数字をよく覚えるほうで、以前は友達や事業所の電話番号を全部覚えていました。今でも会社の予算を見て「これは違うだろ(汗)」と指摘することもあります。数字じやまだまだ社員に負けないですよ(笑)。

### ゆっくりと 確実な成長を

囲碁は時々やりますね。覚えたのは学生時代ですが、最近はインターネットで楽しむこともあります。囲碁の魅力は比較的的局面が広いこと。「ここでダメでも(ついで挽回)ができるから視野が広がります。よく「経営や戦略を考えるのに役立つ」なんて言われますが、そんなこと思っちゃっているわけじゃない(笑)。面白いからやるんです。

経営について言うなら会社は成長していく必要があります。ただし急成長はダメ。うちはもともとガス会社ですが「皆様の暮らしを豊かにする」ということを目指し続けながらグループ企業が徐々に増えたのです。これには100年かかりました。身の丈に合った成長を続けることが大切ですね。

そして「本来的目的」を見失わないこと。これは私の信条です。企業は利益が目的という人もいますが、私の目的はあくまでも「ステークホルダー(※)の幸せ」。今の世の中、本来的目的を忘れ、手段にとらわれていることが多いですね。

### 自立は一生のテーマ

子育ては家内任せ。仕事ばかりで家庭はあまり顧みなかったですね。だから子どもと過ごすときは優しくしていました。ところが娘たちがもれを見抜いていて、いざという時に頼るのは母親。「パパは優しいというより甘やかしている」と娘から言われた時はショックでした(笑)。今は家内と二人なので朝食の準備もするようになりましたよ。コーヒーを入れて、果物とヨーグルトを用意する程度ですが。ちなみに猫の世話も私の役目。



## サーラグループ 代表 中村捷二さん



### Profile

1942年京城(現・ソウル)生まれ。生後半年で父親の故郷・浜松へ。慶応義塾大学商学部卒。1963年大阪ガス株式会社入社。1969年中部ガス株式会社入社、1994年より同社代表取締役社長。2008年よりサーラグループ代表。子どもは娘二人、現在は妻と猫2匹の4人(?)暮らし。

現在母校である浜松北高の同窓会長を務めているので、式典で高校生に祝辞を述べる機会があります。そんなときに話すのは「人生は幸せになるためにある」ということ。何によって幸せになれるかは人それぞれ、価値観によって違いますが。だから良い価値観を身につけることが大切。世のため人のためになることを幸せと感じる人になってほしいと願っています。人の価値はどれだけの人を幸せにしたかで決まる

のではないでしょう。また、幸せになるためにはどうすればいいか。しっかりとした目的を持ちチャレンジして成就させる。その中で幸せに近づけるのだと思います。

今の社会では国や組織に頼ることが多すぎる。良い社会になるためには一人ひとりの自立が大切だと思います。僕は自立なと全く意識しない高校生で親の言うことに従ってききましたが、30代のころ福沢諭吉の「字問のすすめ」

を読み直し、「これはいかん」と大いに反省(笑)。明治という時代に「個人の独立なくして国の自立なし」と訴えています。今も十分あてはまれますよね。自身の反省をもとに若い人たちに「一生自立を目指して」と呼びかけているのです。

(聞き手/編集室 藤田敦子)

※顧客、従業員、取引先、地域社会、株主など企業の全利害関係者